



ROAD

輝く人たち No.005

沖縄から、世界へ ～プレッシャーや課題を力に～

協力 うらそえナビ

リオ2016パラリンピック
ク・ウィルチェアラグビー

で日本代表チームが3位
決定戦に勝利し、銅メダルを獲
得。悲願のメダル獲得に日本中
が湧きました。そのチームの一
員にモヒカンヘアがトレー
ドマークの選手がいます。浦添
市が誇るべき選手・仲里進さん
(39)です。仲里選手のパラリ
ンピック出場は04年のアテネ
から数えて4度目。今やチーム
を引っ張るベテラン選手です。

そんな仲里選手がウィル
チェアラグビーを始めたの
は今から14年前。生まれつき先
天性多発性関節拘縮症という
障がいを抱えますが、スポーツ
が大好きだった仲里選手は、障
がいをもとせず子ども
頃は友達と共にサッカーに熱



仲里 進さん
1977年4月6日生まれ
浦添市 内間出身
内間幼稚園→内間小学校→神森中学校
→浦添高等学校
アディダスジャパン所属
車いすバスケット、車いすツインバスケット
ボールを経てウィルチェアラグビーを
2002年から始める。2004年のアテネから、
北京、ロンドン、リオと4大会連続出場。
リオパラリンピックで銅メダル獲得し、注
目を浴びる

中します。車いすを利用するよ
うになったのは18歳の時。車い
すでも競技できるスポーツが
したいという思いから、車いす
バスケットボールや車いすツ
インバスケットボールに出会
いのめり込みます。当時車い
すバスケットボールのチーム
メイトであり、ウィルチェア
ラグビー日本代表選手であつ
た神里和彦氏にその能力を見
出され「バスケットは国内のみの競
技。ラグビーなら世界を目指せ
る。世界を目指してみないか？」
と誘われます。仲里選手はその
言葉に心動かされ、ウィルチェ
アラグビーを始めます。競技
開始後その能力を開花させ、わ
ずか2年で日本代表に選出さ
れ、アテネ大会への出場を果た
し、今年開催されたリオに至る

まで第一線で活躍し続けてい
ます。

ウィルチェアラグビー最
大の魅力は何と言っても車い
す同士が激しくぶつかり合う
タックル。その衝撃の凄さは、
仲里選手がラグビーに出会っ
た当初「怖かったです」と言わ
しめる程。しかし今では「自分
の力を出し切れるスポーツで
あり、その衝撃が快感なんです」と
笑顔を見せます。持ち前の
明るさでチームのムードメイ
カー的存在の仲里選手。ここま
での道のりは決して順風満帆
だったわけではありません。

「思春期には障がいに対する
周囲のいじめや偏見に悩み、行
き詰ったこともあり。そんな
な時に心の支えとなったのが
車いす競技であり、私の居場所
でした。過去のことがあったて今
の自分がある。負けん気が備
わったと思えばすべてプラス
になっています」と語る仲里選
手。苦悩を乗り越える並々なら
ぬ努力がありました。

トレードマークのモヒカン
については、「どうやったら皆
さんに覚えてもらえるか、北京
大会からこのヘアスタイルに
なりました。それ以降やめられ

なくなってしまう…。このへ
アを維持するの意外に大変な
んですよ」と笑って答えます。

「今回リオパラリンピックで
銅メダルが取れたのは周りの
サポーターやたくさんのおかげだ
してくれる人たちのおかげだ
と思っています。この銅メダル
には重量以上に重みを感じま
す。世界一を目指すとなると今
以上に追い込んでいかなけれ
ばならないと思います」と仲
里選手は真剣なまなざしで話
します。

**地元「沖縄」から羽ばたく
ことに意味がある**

生まれも育ちも沖縄。ラグ
ビー競技の拠点も沖縄。
仲里選手は「沖縄から」という
ことにこだわります。「いろい
ろな大会に出場する中で、県外
ではあちこちで沖縄を感じま
す。世界の大会では日本人を感
じます。そのたびに、みんなに
支えられて僕はここにいると
実感します。本気を出せば世界
に羽ばたける、だから僕は地元
沖縄にこだわるんです。そうい
う意味では、地元浦添市から市
民栄誉賞をいただいたのはうれ
しいです」と地元への思いを

話します。

仲里選手の今の目標は4年
後の東京パラリンピック。「4
年後必ずしも代表に選ばれる
とは限りません。また、パラリ
ンピックに出場するためには
予選を通過することも必須。そ
して40歳を超えた自分がか
まで戦えるか。私にとっては一
日一日が勝負です。いい意味で
プレッシャーや課題はたくさ
んありますが、挑戦し続けたい
と思います」

どこまでも明るく前向きな
仲里選手。そこが仲里選手の最
大の魅力であり、日本代表チ
ームにとって必要な存在なんだ
と感じます。

4年後一番いい色のメダル
を獲得した仲里選手の姿が見
たい。今後も仲里選手を応援せ
ずにはられません。

